# ひと・まち・つながり

2018 VOL. 25

共生シンフォニー
まちかどプロジェクト
〒520－2144
大津市大萱5－6－8
TEL 077－543－2844
右上のQRコードからfacebookにアクセスできます↑

## 【まちプロの新たなる冒険】

長かった梅雨もようやく明け、夏本番を迎えました。

まちかどプロジェクトでは、昨年度より取り組んでいる、メンバー主体の方針決定会議や全体会議の運営が軌道に乗ってきています。日帰りイベントの行き先もメンバー全員で決め、下見が必要との意見がでれば率先して「私が代表して行きます」と手をあげて責任を持って役目を果たそうというポジティブな意識へと変化してきています。また、まちプロ全体で取り組んでいる演劇においても久しぶりの長編新作に取り組んでいます。初めて演者志望のメンバーの取り組み姿勢に他のメンバーだけでなく職員も感化されてきています。それぞれ皆が役割を持ち、大道具、小道具と準備物は多くありますが皆が楽しみながらそれぞれの個性を活かしイキイキと取り組んでいます。

また、毎朝一番に主目的である「みんなで作り上げるまちプロ」をキーワードに全体でのミーティングをメンバー主体で行っており、会の最後には、2分間スピーチを設け、当番制により「最近の私は、まちプロで色々なことにチャレンジしていて失敗することなんて怖くなくなった、家の中に引きこもっていられないし外に出て色んな事を経験して楽しみたい」というコメントもありました。

障害があっても人生をアグレッシブに生きることを率先し過ごしているんだと実感しています。まちプロ全員が同じ想いとなれる様に今後も頑張って行きたいと思います。これからもまちかどプロジェクトを宜しくお願いいたします。

（上田）

# wheelchair

## ホイールチェア

ぜひ、観て欲しい
「障害について
考えさせてくれる」
オススメ映画はこれだ!!

## ホイールチェア です。

環境や時代は、その人個人を作り上げる不可欠な要素ではあると思います。しかし、何かを観たときに起こる気持ち、感じ方はそれらに左右されない、まぎれもない個性ですよね？そんな『素』がフッと語られる瞬間も、ホイールチェア の魅力だと思うんです。※ホイールチェアで取り上げた映画はDVD化されています

カット：竹内みどり

### 当事者視点のクロスレビュー

| | こうじ | まゆみ | みどり | じゅん | あーさ | ケン・カワバタ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | ドキュメンタリーもいいね！ | プライベートでも映画を観に行ってるよ | 最近は寝てないで！ | バランスとわかりやすさが大事 | 映研に再挑戦しますよ！ | 気になるぜ！ムービー！ |
| はながゆく | **保育園の先生が仕事仲間としてはなさんを受け入れたのがよかった。対等な関係なのがよかった。** | **劇中の先生が、障害者も健常者もわけないで一緒に勉強するのが大事って言っていた。** | **はなさんの努力を理解してくれる集まりを作るのが大変やと思う。私らも逃げたらあかんな。** | **いろんな障害がある中でも講師をやりたいと思う気持ちが見どころ。** | **はなさんはしゃべれなくても、コミュニケーションが取れるってことを教えてくれる。** | **はなさんは講師として働くことで、社会に参加してはるんやと思います。** |
| 箱入り息子の恋 | **親の気持ちが分かって、好きにさせてあげたい。本人の自由にするのが一番。** | **途中からだったので、もう１回借りてみようかなと思います。** | **主人公の２人はある程度の年齢やし、自由にさせてあげたら？いい恋愛物語。** | **親が決めるのではなく、本人同士が決めること。** | **車が来たときとっさに命がけで助けたところはかっこいい。** | **親は温かく見守ってあげたらよかったと思う。** |
| 光 | **目が見えなくなっていく人は色がぼやけていくのがリアルに描いてあって良かった。** | 休 | **自分も中途障害なので歯がゆいさ、苛立ちがよくわかった。** | **自分も失明していたかもしれないからちょっとした気持ちが被った。** | **目が見える自分としては、目が見えない人の助けになったらなと思う。** | 休 |

●弟の家を訪ね、弟・妹にも会うことができました。嬉しかった。妹は10月にも帰ってきてくれはるので楽しみです。弟も帰ってきたらいいな。

（あーさ）

●メンバーの誕生日会に以前まちプロで働いていた人も来てくれて、最近のバイトとかいろいろ喋ってくれて面白かったです。（Y田）

●5月にいきなり病院に行った。手術は簡単やったらしいけど、入院というのがつらかった。今回は看護師さんがみんな優しくて、よかった。退院してまちプロのみんなの顔見れて良かった。（T札）

●ブログで「男の子」って単語を打つ度、「男っ子が「男の人」を「おとひとこ」と言ってたのを、思い出します（笑）。

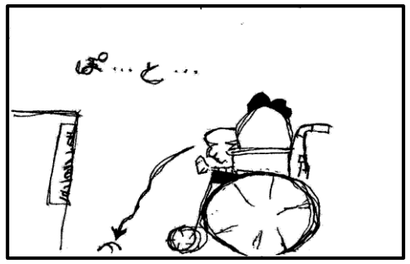
（竹内みどり）

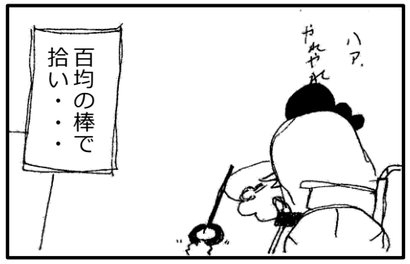
カット：竹内みどり

暑い夏
御神輿かつぎ
足も騒ぐ

## 100センチの世界から**こんにちは**

作・みどり



# 長労会おでかけルポ

とことんハウス
・コミュニティカフェ
**「Mit Leven」**

営業時間：12時～19時
定休日：月曜・火曜
（祝日は営業）
住所：
〒520-2279
滋賀県大津市黒津５丁目
１－１４
TEL：077-546-7571

小雨の中、大戸川沿いののどかな田園風景の中にあり、久しぶりに伺った、大津市内にある、**ミットレーベン**に行きました。

しばらくの間、連絡が取れない日々がありました。乗光さんの予想どおり、入院していたらしい？マスター、大丈夫ですか？体、大事にしてください。

今日のランチは、豆腐ハンバーグ、おいしかった。野菜が多いのは、仕方がない。でも、また、来たいと思います。紅茶（ダージリン）、おいしい。

事前に予約をしてください。

# せかんどステ～ジ

草津福祉センター１FNPO法人きらら「ホップ」にて

■鳥井　慣れてきたのか、可愛い店員さんが私達のことをわかってくれていて、親切に対応してくれてよかった。

■北　いつもいつも親切にしてくれて、おいしいし、安いし、大変いいところ。

■明智　３人のウェイトレスさん、とても『すてき』です。

■森田　ここのキーマカレーはおいしいよ！

■乗光　ここのランチは何といっても副菜のおいしさ。裏切ることはありません。ちょっとした副菜がおいしいお店などそんなにあるものではないですヨ。

■梅屋　たらふく食べれて、腹一杯になる。９００円でランチとそばにコーヒー付き。ここはいいわ！

## まちプロ よもやまdiary

↑日帰り旅行の下見
@京都水族館

↓ミュージックケアの活動の様子。音楽に合わせて手を取り合っています。

↑三井寺でがんばクッキーの販売を致しました。綺麗な桜を背に、春を感じておりました。

まちプロの活動の一部を紹介していきます。
それぞれの人たちがそれぞれの方法で
地域や社会とつながっていこうと
活動しています。

夏はイベントが盛りだくさん！
見かけたらよろしくお願いします。

# まちプロ みんなで見てね！読んでね！ の活動

## プティドールに行った

↑ケーキを前にして、笑顔！

三月二十日、ちゃれんじジョイVで野洲のプティドールさんにケーキを食べに出かけました。以前から計画は立てていて、僕が提案しました。僕の場合は、外出に使える時間は限られているし、本当はご飯とかスイーツとか、あちこち出かけたいけど行けてないから。他の参加メンバーも、ケーキを外に食べに行ったことがほとんどないみたいでした。なかなか日取りが決まらなかったんだけれども、やっと念願かなって、この企画が実現しました。最高においしかったです。

今後もちゃれんじジョイVでは、今までできなかった・思いつきもしなかったようなチャレンジを企画したいと思っています。

今回の企画では、お店の皆さんも丁寧に対応してくださったので、楽しい時間を過ごせました。プティドールさん、ありがとうございました。

（T札）

## まちプロ活動紹介 ホイールチェア編

↑映画鑑賞後のディスカッションの様子

ホイールチェアは障害者を描いた映画をみて、当事者視点で感想や意見を言い合う活動です。当事者が観ることで、健常者とはまた違うレビューができるし、障害者の気持ちを少しでも分かってもらえたら嬉しいなという気持ちでやってます。

最近見た映画でよかったのは、「マイ・フレンド・メモリー」です。最初この二人は仲良くなるのかなって思ったけど、お互い持ちつ持たれつでいいなって思いました。どんなことでも二人で助け合えば乗り越えられるやろうなともおもいました。最後ケビンが死んだのはかわいそうだったけど、悲しかったけど、周りの人と乗り越えて改めていい映画だなって思った。見どころは二人が初めて出逢ってる心を通わせるシーンです。

今後は、もっと公民館とか、色んな場所で上映かい会を開きたいと思っています。

（Y田）

## 演劇・新作シナリオに取り組んでいます。

新作長編について、一座の一人N村さんに語ってもらいました。

※

今回のシナリオは、一人暮らしをしたい障害者をテーマにしています。障害者ということで周りから反対される中不動産屋さんが障害者に対して人として対応するところが見どころだと思います。みなさんもこの演劇をご覧になりますと、障害者に対して考え方が変わると思います。

私も過去に一人暮らしの経験があり、かなりエネルギーを使いました。今回、一人暮らしをしたい障害者がテーマですので、健常者以上にエネルギーを使うと思います。私もこの演劇では主人公の友人役で出演します。不動産屋さんとの接し方で悩む主人公に、不動産屋さんの中身を見るようにとアドバイスする、シナリオ上かなり重要な役だと思うので今から緊張しています。ひと前で緊張するのは苦手ですが、緊張することも大事だと思い出演しました。これから一人暮らしを考えている人も、考えていない人も一人暮らしがしたい障害者に対しての世間の目線がわかると思うので是非ご覧ください。

（N村）

## スポーツ「ボッチャ」の交流に行ってきました

↑ボッチャに初参加！

五月二十二日（火）、大津市立障害者福祉センター内で、滋賀ボッチャ協会の方たちとボッチャの交流ができました。

今回はまちプロメンバー４名参加のうち、１名が初参加しました。プレーしてみると、投球補助のスロープを使って投球するより、足でボールをけるほうが、自分らしくプレイできることに気づきました。

何度も投球していると、より遠くへ、もっとジャンクボール（的となるボール）に近づけたいという思いが強くなるなど、ボッチャという競技に興味がわいてきたようです。

今度、８月２５日（土）には滋賀県立障害福祉センターで行われる大会に参加します。

滋賀ボッチャ協会の方たちのあたたかいお声かけが、いつも背中を押してくださいます。これからもがんばりたいです。

（ちゃれんじジョイV）

# 花火の夏！

by tokkiey

## 活動・スタジオプレイのとある一日

毎週木曜日は演劇デーとして、まちプロ全体で演劇練習をしています。役者陣は演劇練習をするのですが、演劇での役割を模索中のメンバーは「スタジオプレイ」チームとして、いまのところ、大道具・小道具係として活動しています。

ある日は、演劇に使う効果音やBGMを選ぶ作業をしていたのですが、その横で突然、あるメンバーさんが人形劇を始めました。題して「ウサギとコアラ」。

ウサギ＆コアラ「こんにちは～。」
ウサギ「ウサギでーす。」
コアラ「コアラでーす…ZZZ」
ウサギ「おい、寝るな！コアラ！」…

こんなストーリーでした。聞いてみると、メンバー、スタッフとも黙々と作業している様子を見て、場を楽しくしたいと思ったとのこと。役者や裏方など、自分なりの演劇に参加する形を探るため始まったスタジオプレイという活動ですが、即興の人形劇を観て「フッと降りてきた」ひらめきや想いを活動に活かしたいと改めて感じました。

（編集部）

## まちプロ レクリエーション

一日旅行企画として、六月十六日、京都市鉄道博物館に行きました。その様子を参加メンバーの一人、T谷さんにインタビューしました。

＊

編集部（以下、「編」）：電車は好きですか？

T谷：電車はどうかなぁ。でも、新幹線に乗ってみた。これは楽しかった。あと、お弁当食べた。

編：確かに、その日は昼食持参でしたよね。何が入っていましたか？

T谷：エビフライ！

編：他に、レクリエーションの感想はありますか？

T谷：ここでおみやげ買った。きんつばです。

編：きんつばですか。ちなみに、何の味ですか？

T谷：ツバキはあんこやろ！（歌謡曲「アンコ椿は恋の花」のことだそうです。）

編：ありがとうございました。

↑みんなでお弁当

## ホイールチェア 地域交流に行きました

六月三十日、野洲市の「のばら識字教室」さんと、映画研究サークル「ホイールチェア」との地域交流が開催されました。まちプロチーム含めて２０名を超える参加者が集まっての、映画鑑賞とディスカッションを行うことができ、楽しい時間を過ごすことができました。

↑交流会は盛況でした

ディスカッションでは、「『ともに生きる』ためにはまず出会うことが大切」との意見が上がりました。まちプロでもこれまで、演劇公演や講師派遣などの活動で、自ら街に出て人と出会ってきたつもりではありますが、まだまだ町で障害者と出会う機会が少ないことを実感しました。この地域交流が、いろいろな人との出会いの機会となればうれしく思います。

のばら識字教室の皆様、そして参加してくださった皆様、ありがとうございました。

（ホイールチェア）

## あらためて考えたい演劇にたいする想い

「なんで障害者が演劇をしているのか」

演劇を演じているメンバー全員、もう一度原点にもどって考えてほしい。

障害というハンディがあると街ですれ違ってもなんとなく避けられがちでましてや、その想いなどなかなか伝わらず・・・

あなたは演劇をしたことありますか？舞台に上がれば障害者も健常者も一人の役者。それぞれの人生や想いをセリフに込めて観客に伝えることができます。ありのままの自分たちを避けずに見てもらえます。人と人として出会えると気づきました。いつか、どこかの舞台であなたに会いたい。そんな気持ちで演劇活動を続けています。

障害者が舞台に立つ。それを見ただけで、多くの人たちは「すごい」と言う。障害者が演劇をする。それを見終えたら、多くの人たちは「感動した」と言ってくれる。僕たち障害者は、ホントにそれだけで、満足なのだろうか？

まちプロ一座の演劇活動は、今から始まるのだと思って、これからも続けていきたいと思っています。

（太田好信）

## 片岡博の思い放題

### 待つ・待たせるということ

スーパーやコンビニでお金を支払う時や銀行のＡＴＭでお金を扱う時は、人が多い時は、順番に並んで待つしかない。もう、大分前になるが、ふと気付いた瞬間があった。

スーパーのレジにたくさんの人が並んでいて、オレはできるだけ待たずに早く順番が来るように、人の並びが少ないレジを選ぼうとしていた。その刹那、「あれ？なんでオレは急いでるんかなぁ？」「なんで待つのがイヤなんやろ～か？」ってフと頭の中に浮かんだのだ！そして、「レジで待つのは当たり前やんか！」「待ってもええやんか！」って思いが次の刹那に浮かんだのだった。

前述のことが起きてから、オレは並ぶのが苦で無くなった。さすがに急いでいる時は別だが。

と、ここまでは待つほうの側からのモノだったが、今度は待たせる側からの視点で書きたい。

並んで待ってやっと自分の番が来て、レジで支払いを済ませる時や、ＡＴＭで現金を出し入れする時は、一機に待つほうから待たせるほうに立場が逆転する。特にオレら障害者は財布の出し入れとか現金の出し入れに、レジの人や銀行の人に手伝ってもらうにしても障害のない者と比べると時間がかかる。だから、待つのが当たり前やって気付くまでは、すごく気を遣って支払いや現金の出し入れが済むと、財布を片付けるのは後にし、その列の先頭をできるだけ早く離れ、それからゆっくりと財布をカバンに戻す作業をしていたものだった。ヘルパーさんと一緒にいる時もやはり同じようにできるだけ列の先頭を離れることを優先し、後で、ヘルパーさんに財布をカバンの中に戻してもらうようにしていた。

けど、待つのが当たり前と思うようになってからは、それほど後に並んでいる人達に気を遣わなくなった。まあ、とは言ってもヘルパーさんが一緒の時は順番が来る前に財布をカバンから出してもらったりという当たり前の気の遣いかたはしているが。

けど、オレらが後の人に気を遣うのは、できるだけ人の迷惑にならないように、という障害のない人への気遣いなのだが、ヘルパーさんが「後の人が待ってはるから財布の片付けは後にして、早うこっちに」と誘導するのは、こっちからは「如何にも迷惑な人がここにいる」と言うているようで、不快に感じるのだ。待つのも待たせるのもお互い様という、もっと時間に余裕を持った社会にしないと、障害者はノビノビと生きられないなあ～と思う。障害があろうがなかろうが、皆、人は迷惑をかけ合いながら生きているのだという自覚を持ってもらいたい。

ヒロシ

# まちプロ講師ダイアリー

## 小石哲也です！

### あそどっぐさん

６月９日(土)瀬田東支所で、「笑がい者の僕」というタイトルで、あそどっぐさんが講演をされるイベントがありました。

そのイベントに、僕も参加して、拝聴しに行きました。芸人さんであり、NHK「バリバラ」の出演者でもある、あそどっぐさん。

そのお話は面白くて、「バリバラ」のVTRを流して、要所要所でVTRを止めて、ちょこっと喋るというスタイルでした。

VTRだけでも面白いうえに、止めてからのお話も面白くて、ショートコント「北風と太陽」も面白くて、終始笑わせて頂きました。

VTRは京都観光。お座敷遊びや坐禅を体験されてるそのお姿に「障がい者だからと諦めてはいけない」というメッセージを僕は受け取りました。

諦めてた訳ではないけど、舞妓さんとのお座敷遊びは、やったことがなかったので、機会があれば、是非やってみたいなと思いました。

舞妓さんとのお座敷遊びって、いくらかかるんやったっけ？　高いんやったっけ？(笑)一度きりの人生、楽しく生きていきたいですね。(笑)

テツヤ

# 5 まちかどプロジェクト　２００６～

2000年、支援費制度の導入によって、福祉は利用するサービスとして障害のある人が事業所との契約を結ぶという、画期的な制度の変換がありました。しかし、財源確保の困難や地域ごとのサービス格差（障害により対象外となる当事者もいた）など多くの問題をはらんでいました。それらの問題を解決するために「障害者自立支援法」が2006年に制定されました。でも、それも障害の重い人ほど利用者の自己負担額が増えるという矛盾を抱えたものでした。当事者団体からの批判もあり、障害者自立支援法は、2010年に改正されます。そして、それまで盛り込まれていなかった基本理念（＜共生社会の実現＞や＜可能な限り身近な地域で必要な支援を受けられる＞）を法の中で定めることになり、2013年には、「障害者総合支援法」が制定されることになっていきます。

そういった制度の変換は、障害のある人たちの生活や就労の現場で、多くの変化が生まれました。社会福祉法人共生シンフォニーも例外ではありません。2008年、カンパニーは「就労継続A型」に移行し、まちかどプロジェクトは「多機能型生活介護事業所」として事業を進めることになったのです。

社会情勢の変化は、障害当事者たちの活動に、多くの変化が持たされていきす。

郵政民営化に始まった、規制緩和は福祉の分野に多くの企業や、NPO法人の参入が始まりました。その頃からでしょうか、それまで多くの学生ボランティアが福祉の現場の支援に関わっていましたが、少しづつ減少していきます。若い人たちの関わりは、まちプロの障害当事者からの発信の場でもあり、ボランティアにとっても障害のある人たちのことを理解することが出来るという良い機会でもあったのですが、若い人たちは「ヘルパー」という職業による支援者となっていきます。

そして、「多機能型生活支援事業所」となったまちプロは、当時の共生や自立に関心を寄せる重い障害のある当事者たちの受け皿となり、メンバーの障害は重度化していきました。しかし、これは、立ち上げ創始者のKa氏の「どんな障害があろうとも共に」という思いを受け継いでいく大事なことなのでした。
現在、自分の思いの実現のために活動しているYo氏、Ho氏も養護学校卒業後、2008年に新メンバーとなりました。

演劇を中心とした活動体であり、障害者自らの思いを外に伝えていくというプロセスは変わらないにしても、制度の枠組みの中で当事者の思いだけでは進めることは困難な時代でした。それを支えるスタッフの力量も問われていきます。

Ka氏より、障害当事者としてできること、外に向かって共生の意味を問い続けるという意思は受け継ぎたい。K石氏は、O氏を座長とした演劇活動や、手話歌ライブも行いながらも、事業所運営のために当事者への賃金支払いのための「仕事」として行うことになった「パソコン磨き」や「駅のトイレ掃除」にも関わっていきます。K石氏にとって、このころのまちプロは「何のために、何の意味で」と考え悩み続けていたと言います。何をどのようにしていけばいいのか具体的な方向はまだ見えてこない時期でもあったようです。スタッフの入れ替わりや2か所（法人の事業所の１つ「フォレストデイズ」と瀬田駅前の「まちかどプロジェクト」）の活動場所を行き来するという不安定さも影響していました。

そんな中、共生シンフォニーの事業も拡大し、カンパニーの人も増え、新工場の設立とともに、まちプロの活動拠点が現在の場所（元カンパニーの工場）に移転したのは2010年9月のことでした。

まちプロの歴史

２００６年「障害者自立支援法」制定

↑学校・公民館などでの人権学習で演劇公演させてもらいました。（2008年）

２００８年多機能型事業所として再出発

↑地域リーダー養成講座（2008年）

２０１０年まちプロの活動場所が移転

↑「パソコン磨き」の様子（2010年）

２０１３年「障害者総合支援法」制定

まちプロのこれまでの活動の資料は、主に長労会が管理しています。

※資料提供：長労会